

農経新聞

株式会社 農経新聞社
東京都品川区西五反田
1-27-6 市原ビル9F
(郵便番号 141-0031)
電話 東京 (03) 3491-0360
FAX (03) 3491-0526
ホームページ
<http://www.jade.dti.ne.jp/~nokei>
郵便振替 00180-8-156982

花きネット 取引領域を拡大 産地と市場間 代金決済と物流で支援

花き業界で、川上から川下までを網羅したインターネット取引が稼働をはじめた。運営するのは花きネット(片桐良行社長、東京都港区、資本金二億五千万円)。従来の、市場から小売までの取引に加え、このほど産地と市場間の取引サービスを開始した。新サービスを提供するにあたっては、まず、ネット取引につきまとう物流の課題をクリアするために、定温管理が可能な物流センターを設置。また、小口の生産者が多い実態を踏まえ、卸に代わって代金を支払う決済機能を付加した。今後は、産地開拓により品揃えを充実させ、市場を基幹とした新マーケットを拡大し、花き流通を活性化させたい考え。また、集荷に苦しむ小卸のサポートという側面も強い。

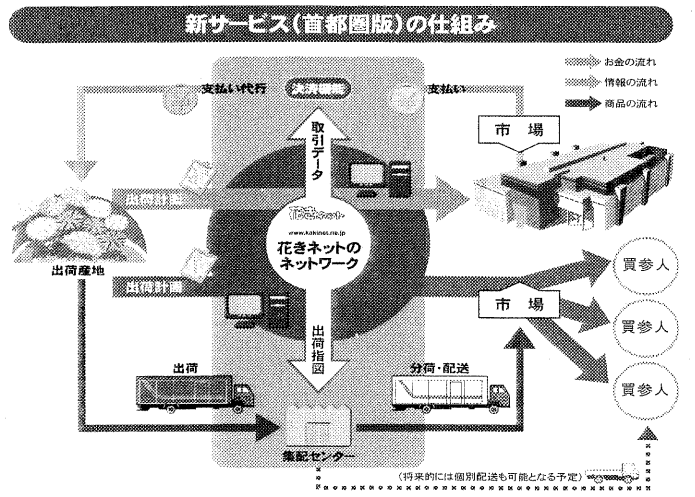
セリ前に確実な仕入れを可能に
花きの市場経田率は平成十四年度で七九・七%。多品種少量性という品目の特

徴と、生産者や小売店などに小口の業者が多いせいか、青果物よりも市場取引の依存度が高い。ただ、そんな花き業界でも大手卸への集中が深刻化している。

そこで同社は、平成十二年、インターネット上に業界初のB to Bインフラである「花きネット」を構築。卸の共同購入システムや、複数市場が一つの仮想市場に荷物を上場し、他市場の買参人にも商品が売れる仕組みなどを次々に立ち上げた。

花きネットでは、希少価値の高い商品など品揃えの充実だけでなく、入荷確定情報により、セリ前に確実にかつ計画的に仕入れができる。これらの点にメリットを感じる買参人は多く、現在、全国一三市場と約七〇〇の買参人の加盟がみられる。

優良産地の商品を市場に代って開拓
同社では、設立五年を機に、これまで主体だった市場と買参人間の取引に、産地を加えた下図。情報発信の強化と取引の活性化を図ることが目的。



に保冷機能(温度帯五℃)を備えた物流センター(延床面積二、三二二平方メートル)を用意した。産地負担で、このセンター一か所に配送すればよい。センターからの引き取りは市場負担で、配送先は首都圏一都六県の卸に限定した。

定価販売方式により産地が価格形成も
さらに、大手金融機関との提携により、同社が卸に代わり支払いを行う代金決済機能も付加。月三回締めの日後払い、卸には三十日後払いとした。また、同

社が買手側の信用調査を実施し、与信限度額を設定。その枠内での取引となる。それと手数料を合わせて支払い保証も行う。
取引方法は、買手卸が希望価格を入れる「オークション方式」のほか、生産者自身が希望価格を提示する「定価販売方式」が取られる。産地が価格形成に参画でき、また定価販売ならば複数の卸からの買い注文を期待することができる。
なお、同ネットはASP方式のため、利用者は独自にシステムを開発する必要がない。利用料は、産地は手数料として六%、卸は月会費と利用した分だけを負担。仲卸や買参人は定額で月額五千円と安価に設定されている。
すでに参加産地は数一〇か所を超えており、今後は、参加市場の拡大と産地の拡充を図る。同社オリジナルのブランド品を確立したい考えも持っている。